

童話 摘草と子供(絶筆)

故氏 原 鏡

三六

或る處に男の子と女の子があり、其お隣にも同じく男の子と女の子がありました。此四人の子供は毎日仲よく幼稚園に行きました。或る日曜日にお天氣がよく暖かでしたので此四人の子供は一緒に摘草に行きませうと、めいめいに籠や袋を持つて出かけました。其道の處々にはきれいに櫻の花が咲き空には雲雀がビィビィと囀つて、又黄色や白い蝶々が舞ひ遊んで居るのを見た四人の子供はあゝ面白いなあゝ喜んで元氣よく、春が来た春が来た何處に來た山に來た里に來た野にも來たさうたひつゝ行きました。やがて廣い野原に出ましたので此處で摘草しませうと言つて其處を見ますと、あちらこちらに黄色のたんぽぽの花や赤いれんげや紫のすみれや緑のよめ菜が澤山生へて居ますので四人は喜んで摘みましたが、土筆が一つも見付りません。つくしが取りたいなさがして居る處へ、知らない伯母さんが來られましたので四人は、あのおばさんに土筆のある

處を尋ねませうと、おばさんおばさん私達は土筆が取りたいのですがさうぞつくしのある處を教へて下さいと言ひました。伯母さんは此の山を上つたら澤山つくしが生へて居ますと教へて下さいましたので四人は大喜びで有り難うございますとおばさんにお禮を言つて早く取りたく皆かけて山を上りますと餘り急いだので、四人は皆ころびました。おばさんはビックリして其そばへ行つて見ますと、皆膝をすりむき手をすりむいて居ますので、皆いたがつて泣くだらうと思つて居ますと一人も泣く者もなく痛いのをこらへて、ずん／＼山へ上つて行きますので、おばさんは大層感心し、皆さん強い事とほめますと四人は、私達は大きくなつたら強い人になるのですから少し位のけがは何んでもありません、先生からいつも辛棒しろと言はれて居ますのでこらへる癖が付いて居ますので何も有りません、と言つて元氣よく山を上り澤山つくしを取つて喜んで歸りました。